

刺網漁の漁獲物が食害を受けた事例について

環境増養殖担当 井口 悠稀

Key word ; 漁獲物、刺網、サワラ、食害、スナホリムシ科

はじめに

2023 年の 4 月に、徳島県鳴門市北灘沖で行われている刺網漁において、漁獲物のサワラが食べられる被害が発生したという報告がありました。この漁業者さんは、この海域で 35 年以上にわたりサワラの刺網漁を続けていますが、このような被害に遭ったのは初めてということでした。

被害の原因生物を探る

まず、今回の被害の原因を探るため、漁業者さんから提供された生物を調べました。この生物は、食害を受けたサワラに付着していたということでしたので、原因生物である可能性が高いと考えました。提供された生物は計 4 個体で、体長は 20mm から 26mm (平均 22.5mm) でした(写真1)。



写真 1 サワラに付着していた生物

この生物の外観などから文献等の情報を調べたところ、等脚目スナホリムシ科の「ヤマトスナホリムシ(学名: *Natanolana japonensis*)」である可能性が考えられます。

ヤマトスナホリムシは日本では太平洋と日本海の沿岸に分布しており、水深 10m から 500m の海底に生息しており、体長は最大で 26mm ほどに達し、体色は淡黄色です(布村ら 2019)。また、海底の魚の死骸などを食べる海の掃除屋としての役割を担うダイオウグソクムシやオオグソクムシと同じスナホリムシ科に属しています。(鳥羽水族館、鳥取県)。

ヤマトスナホリムシの摂食能力を示す事例として、トビエイの肉を一晩のうちに骨格標本が作れそうな勢いで食べ尽くすという記事が掲載されています(鳥羽水族館)。

今回の被害を受けた時の状況を漁業者さんに聞き取ったところ、食害に遭ったサワラは 10~15 匹がかたまって網に掛かり、その重みで網全体が沈んでいたそうです。また漁業者さんによるとサワラは海中でも独特の強い匂いを放つそうです。今回は網が海底近くまで沈み、身動きが取れない状態で強い匂いを放つサワラがヤマトスナホリムシの餌食となった可能性が考えられました。

最後に

今回発生した食害事例では、原因生物としてスナホリムシ科の「ヤマトスナホリムシ」を可能性として挙げましたが、スナホリムシ科は類似種が多く、同定するまでには至りませんでした。また近縁の複数種がこの海域に生息している可能性も否定できません。

今回の被害事例は我々にとっても初めて聞く話でしたが、他県の事例を調べてみると、宮城県の仙台湾では近年、刺網漁獲物であるヒラメのヨコエビ類による食害事例が報告されていました(宮城県 2024)。徳島県沿岸でも漁獲物が食害を受ける被害がどの程度発生しているのか把握したいと思いますので、漁業者の皆様におかれましては、今後、同様の被害事例が見られた際は、当課まで情報をご提供いただければ幸いです。

参考文献

布村昇・下村通誉.日本産等脚目甲殻類の分類(55).海洋と生物 2019;240:87-88.

「スナホリムシが入館しました」(鳥羽水族館公式サイト 飼育日記)

<https://aquarium.co.jp/diary/2015/03/15519> (2026年3月3日閲覧)

「深海のダンゴムシの仲間を展示」(鳥取県)

<https://db.pref.tottori.jp/pressrelease.nsf/webview/F120B9E5FD7CA32B49258AED000440D>

[4](#) (2026年3月3日閲覧)

宮城県水産技術総合センター.令和5年度宮城県水産試験研究成果要旨集.2024;136-140.